

IMF サーベイ

IMF 春季会合

世界の経済指導者、
回復の下支えに向け連携強化へ



IMF サーベイオンライン
2010年4月25日

4月23日、IMFCとの初の協議に臨んだG-20各国代表：IMFCとの共同作業により相乗効果が期待される。(IMF写真：IMF)

- IMF の政策諮問委員会と G20 首脳、合同会議を開催
- 主要イニシアチブの成功への道を開く
- IMF、ギリシャとの融資パッケージに関する協議を加速化

世界の経済・金融の指導者が、ワシントンで開催された国際通貨基金（IMF）－世界銀行の[春季会合](#)に参加するため一堂に会した。一連の会議で、世界経済の回復の強化及び安定した国際経済・金融システムの構築に向けた取り組みの合意に向け、大きな進展が見られた。

また、IMF はギリシャ当局との融資パッケージに関する協議が進展したことを明らかにした。ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は4月25日、ギリシャの[ジョージ・パパコンスタンティヌ](#)財務大臣との会談の後、声明の中で「経済を再び軌道に乗せるに必要な手段を講じるとする、ギリシャ当局の決意に敬意を表する」と述べた。

「IMF、欧州のパートナー、そしてこの度の融資の全関係者が迅速な対応の必要性を認識している。我々はギリシャのニーズに対し時宜にかなった対応ができるよう、交渉が決着すると確信している」とストロスカーン氏は述べた。

協調的なアプローチを追及

IMF 及び先進並びに新興市場 [20カ国グループ](#)（G20）の経済・金融のトップは、世界危機への対策として協調的な多国間アプローチを追及することで合意すると共に、[金融部門への課税](#)の可能性や主要国の政策に関する相互協議などをはじめ、様々なイニシアチブの検証を行った。

IMFの[国際通貨金融委員会](#)（IMFC）の委員長を務めるユーセフ・ブトロス・ガリー氏は「我々は多くの事項について調査を行った。第一の検証事項は世界経済だ」と述べた。「世界経済は回復軌道にあると思われる。最悪の事態は間違いなく過ぎ去った。しかし、我々はまだ安心することはできない。経済回復が強固になってはいるものの、回復は一様ではない。各国間・国内においてもその様相は異なっている」

総じて話し合いは非常に建設的なものだった、とエジプト財務相のブトロス・ガリー氏は述べた。「我々はG20との初の会合を持ち、双方が協働することによる相乗効果を見出しつつある」。また途上国から成る24カ国グループも協議を行い、[記者会見](#)でコミュニケを発表している。

アイスランドの火山の噴火による欧州からのフライトが混乱したにもかかわらず、186カ国・約2,000人の代表が4日間に渡り多くの協議を行った。

リスクが依然として存在

この度の会議の主要なテーマは経済回復の維持であった。最新の[世界経済見通し](#)（WEO）の中でIMFは、世界経済は世界危機から当初の予測以上に好調に回復しているものの、経済活動の回復の速度は世界各地で異なっていると指摘した。

ストロスカーン専務理事は、世界は危機の第4段階である再建の段階に入ったと述べた。世界は既に1. 危機当初のパニック、2. 協調的国際対応、3. 各施策の効力の確認・安堵、という3段階を経験している。

しかし、同氏は世界には依然としてリスクが存在すると述べた。失業率は高く、経済活動は緩和策に支えられている状態であり、金融部門は未だ再建途上で、一部の国の予算は危険な状態にあると考えられており、また新興市場国・地域への巨額の資本流入の回復が当該国・地域の懸念材料となっている。

道が開かれる

IMFのジョン・リプスキー筆頭副専務理事は、この度の会議で、多くのイニシアチブが今年後半に進展を遂げるための道が開かれたと述べた。

主な内容は以下の通りとなっている。

- **相互評価。** G20の[「強固で持続可能かつ均衡ある成長のための枠組み」](#)は、各国がIMFの支援を受けながら協働し、各国の政策の、持続的で均衡ある世界経済成長との総体的な整合性について評価を行うとした協定である。リプスキー氏は、IMFが現段階での分析を提出すると共に、G20はワシントンで

の会議で相互評価のピア・レビューのプロセスを開始、順調な進展を見せたことを明らかにした。

- **金融部門の改革。** 金融部門の改革は IMFC のアジェンダの中でも重要な位置を占めていた。IMFC は「安定した国際金融システムのための、一貫し且つ協調的な枠組み」の構築を要請した。IMF は、資本及び流動性に関するルール、システミック・リスク対応のための最低限の制度、さらに国境を越えた破たん処理の問題の解決の枠組みについて、2010 年の末までの合意を強く求めている。また IMF は、金融部門への課税の様々な可能性についての[草稿](#)を提出したが、これは 6 月の G20 サミットで検証される予定となっている。
- **IMF の責務と権限。** 危機を受け、IMF はその責務と権限が、多国籍融資機関である IMF の実際の業務とこれまで以上に整合的であるよう、見直しを行っている。IMFC は、危機により、システミック・リスク及び相関関係の分析の強化、モラルハザードの回避、そして十分な財源並びに適切なセーフガードを伴うニーズに適合した各種制度による危機への対応の重要性が明らかとなったと述べた。同委員会は、IMF の今後の役割についての十全且つ開かれた議論を求めた。
- **IMF のクォータ並びにガバナンス改革。** 政策当局者は、IMF のガバナンス並びにクォータの改革を 2011 年 1 月までに完了することを宣言した。同改革の目的は、クォータの再配分を実施し、世界経済において新興市場国が力を増してきたという変化を反映させることである。クォータは、IMF 加盟国の貢献度及び相対的な議決権を反映している。
- **低所得国への支援。** 低所得国並びに世界最貧国にとり、事態は依然として厳しい。アフリカの経済は回復すると見込まれている。しかし、ブトロス・ガリー委員長は、2010 年に 6,500 万の人々が貧困ラインに加わると予測され、そのうちの 1,800 万人がアフリカの人々だと指摘した。「全加盟国は、これを認めることはできないとし、同問題の早急な解決に向け、IMF 及び他の国際機関において追加的財源や新たな支援について協議を行うよう求める」ことを、同委員長は記者会見で明らかにした。また IMFC は、新たな融資や譲許的融資の補助金財源にコミットした各国に対し謝意を表すると共に、他のドナー各国からの貢献を期待すると述べた。世界銀行・IMF の[開発委員会](#)は、危機により貧困削減の進展が中断したと述べると共に、危機の影響は長引くだろうと指摘した。「[ミレニアム開発目標](#)の達成まで僅か 5 年を残すのみとなっており、我々の政策が世界のあらゆる貧困層の人々を益するよう努力を強化しなければならない」と各国代表は宣言した。